

キャラクター名
錦 剌耶 (ニシキ セツヤ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	記者
	エンジェルハイロウ					
オプション			年齢	24	性別	男
覚醒	渴望	衝動	加虐	初期侵食率	32	%
出自	天涯孤独	経験	事故	邂逅	貸し	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	13
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	13
精神	3	0	2			5	戦闘移動	18
社会	1	1	0			2	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯電話	
コネ: 要人への貸し	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
猫川 美亜	P 親近感	N 侮蔑		
建宮雄二	P 信頼	N 憐憫		
浦路良須	P 有為	N 脅威		
闇雲支部長	P 有為	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
時の枢	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 相手[難易度:自動成功]ではない行動を強制失敗させる。シナリオ1回								
フラッシュゲイズ	3	3	メジャー	-	-	自動	80↑	
効果: 対象のダイス-6個,R1回								
絶対の孤独	3	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 射撃攻撃を行う、命中した場合次の対象の判定ダイス-2個								
コンセントレイト:エンジェルハイロウ	2	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-2								
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	単体	対決	80↑	
効果: イニシアチブでメインプロセスを行う、使用后HP-20								
スターダストレイン	1	6	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果: 範囲を[シーン(選択)]射程を[視界]に、攻撃力-15,シナリオ1回								
死神の瞳	4	3	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果: 命中した相手の次のダメージダイス+4個、戦闘ダメージを与えることが出来ない								
ディメンションゲート	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【特徴】
 狐の様に目を細め、基本的に笑顔を崩さない細身の男。
 表向きな態度だけは紳士を気取る腐れ外道、結構自由奔放。
 感情の起伏が激しく怒るとチンピラみたいな口調のボコが出る。

幼い頃に事故で両親を亡くし、天涯孤独の身となる。
 その後、親の同僚のツテで記者の見習いとして働く事となり、見習いを卒業してからはずっと一人で生きてきた。
 後に自らが両親を失った事件がジャームによる物であるという事実を知るが、今現在彼はジャームに深い恨みを持ってはいない。それどころかむしろ興味深々の様だ。

記者というカヴァーから情報収集が日課の様になっていて、猫川美亜には度々恩を売ったり売られたりしている。猫川美亜の方はともかく彼はまんざらでもなさそう。
 現在はカヴァーとして記者の仕事をしながらUGNのエージェントとして働いているが、それも「FHだとUGNに目をつけられて鬱陶しい」「かといってどちらにも属さずに力を使っていたらもっと面倒な事になる」という理由から来る消去法なので、支部長を始め他の構成員とは違いUGNの職員である事に誇りも無ければ、UGNに対する忠義もない。もし現状のUGNに不満を持ってば何時FHに移籍してもおかしくない、かもしれない。

自ら望んでオーヴァードとなった経歴を持つため、力を使う事に関してはあまり躊躇はしていない。というより、まるで力を使役する事自体を楽しむかの様に戦う。

【オーヴァードになった経緯】